

市政ニュース

「コウノトリも住める豊かな環境をもう一度」 国内野外コウノトリ100羽到達



6月19日、百合地の人工巣塔から、1羽のコウノトリのひなが巣立ちました。野外での絶滅から46年、放鳥から12年。国内野外の生息数がついに100羽に到達し、一つの節目を迎えました。

この前日には、コウノトリ文化館で記念イベントが開催され、記念講演で県立コウノトリの郷公園の園長・山岸哲さんが「成熟個体数が50羽を超える状態が5年以上続くことで、環境省のレッドリストの絶滅危惧種のランクが一つ下がることもある」と、絶滅の危機から一歩脱する可能性について説明しました。

また、コウノトリ文化館の館長・上田尚志さんが「絶滅前に豊岡でコウノトリが一番



▲心を込めて折った鶴の折り紙が入ったくす玉を割って祝う三江小学校の子どもたち

たくさん暮らしていたところが約100羽と言われている。これからいかにこの数のコウノトリを支え、持続させ、さらに増やしていけるかというスタートラインにやっとならした。この節目を喜び、引き続き今日から頑張っていきたいと思います」と話しました。

100羽の到達は、希望を持ち、夢を信じた人々の、長い時間とさまざまな分野にわたって積み重ねられた努力の成果です。

新たに選任された監査委員

平成25年6月に就任した監査委員の上野和美さんが、6月25日で任期満了となり、市議会の議決を経て、新しい監査委員に中嶋英樹さんが、7月1日付けで就任しました（任期は4年）。



中嶋英樹

【監査委員】（敬称略）

「夏だ！ プールだ！ 初泳ぎ！」

小坂小学校プール竣工

6月16日、小坂小学校で、地元関係者や市議会議員、市長、教育長らの出席のもと、水泳プールの竣工式を行いました。

同小学校の以前のプールは、昭和44年完成のコンクリート製で、老朽化が進んでいたため、昨年8月から全面改修を行っていました。

新しいプールは、FRP（繊維強化プラスチック）製で、メインプールは、長さ25m、幅8mの4コース。低学年用のサブプールは、長さ12・5m、幅3m。メインとサブの間は柵で仕切られ、プールサイドも柔らかい素材が敷かれ、安全を考慮しています。



▲「初泳ぎ準備完了！」新しくなったプールで水浴びをする児童

20日には、待望のプール開きとなり、児童たちは新しくなったプールの感触と初泳ぎを楽しみました。

「主な市政の動き」

〔6月〕

16日・小坂小学校プール竣工
19日・国内の野外コウノトリ100羽に到達

市長の中学校特別授業（豊岡南、竹野、21日・港、22日・豊岡北、出石、7月4日・日高西、6日・但東、10日・日高東、11日・城崎）
27日・豊岡アートシーズン2017（夏会期）（10月1日）

子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭「第4回おんぶの祭典」（7月2日）
豊岡市地域公共交通会議

〔7月〕

1日・玄武洞公園内にトイレ新設
4日・豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会
5日・スマホで投稿「マイレポとよおか」実証実験（10月4日）
5日・豊岡市総合教育会議
8日・九州北部豪雨における被災地・朝倉市（福岡県）に職員派遣（1週間程度）
10日・市長の高等学校特別授業（近畿大学附属豊岡）

さらなる観光の発展と地域の活性化につなげる

「トワイライトエクスプレス瑞風」運行開始!

6月17日、JR西日本の豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」が運行を開始しました。

沿線には、記念すべき一番列車を一目見ようと大勢の見物客が集まり、さつそうと通過する瑞風に熱い視線を送っていました。

最初の立ち寄り地となった城崎温泉では、歓迎セレモニーが行われ、住民ら約

700人がお出迎え。乗客は、瑞風カラーの専用バスで老舗旅館「ゆとうや」の「詠帰亭」を見学したり、文豪・志賀直哉ゆかりの「三木屋」で麦わら細工などを体験したりと、城崎の風情を楽しみました。

兵庫県内唯一の立ち寄り観光地として選ばれた、関西随一の名湯「城崎温泉」。相乗効果で、両者の質がさらに高まることが期待されます。

兵庫県内唯一の立ち寄り観光地として選ばれた、関西随一の名湯「城崎温泉」。相乗効果で、両者の質がさらに高まることが期待されます。



▲豊岡の風景に溶け込む、美しい「瑞風グリーン」の車体

豊岡が音楽の都になる1週間

子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭「第4回おんぷの祭典」開催

6月27日から7月2日までの6日間、子どもたちが、世界で活躍する音楽家と触れ合い、そして大人も一緒に楽しめるクラシックの音楽祭「第4回おんぷの祭典」が開催されました。コンサートは、「学校訪問コンサート」「街角コンサート」「ホールコンサート」など、市内の各所で開催され、市民からは、すぐ目の前で演奏される本物の響きと感動を味わいました。

豊岡市民プラザの「子どもたちのためのコンサート」では、多くの子どもや若いお母さん、お父さんが来場し、会場内は大変な熱気に。今年も子どもたちがバイオリンを弾く体験もあり、練習約10秒の超初心者子どもと世界で活躍する確井俊樹さん(ピアノ)、須山暢大さん(バイオリン)との即興アンサンブルなども行われました(下段「中貝市長の徒然日記」に関連記事あり)。



▲会場の子どものと一緒に演奏する確井さん(ピアノ)と須山さん(バイオリン)

中貝市長の徒然日記 ⑩

おんぷの祭典

「今年もまた仕事にならない1週間が来ました」

ぼくではありません。「おんぷの祭典」実行委員長・岡本慎二さんの言葉です。市内22カ所でクラシックコンサートが開かれました。その立合いで出社できない、と。

小中学校、豊岡カトリック教会、斎藤隆夫記念館、但東子育てセンター、木屋町小路、ひほこホール、市民会館：豊岡に音楽があふれました。

正式名称は、「子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭」です。世界で活躍する音楽家たちの演奏をすぐ目の前で聴いてもらうのが狙いです。

世界的バイオリンドクターの中澤宗幸さんのプロデュースで、4回目の今回は、ウィーンに加え、スペインからも演奏家を迎えました。日本の若手演奏家もいました。

今年、学校訪問コンサートは9校でありました。多動傾向の子が、演奏が始まったとたんリズムをとりながら穏やかに楽しみ、一流の音楽のすごさだと、先生方が衝撃を覚える一幕もありました。

ぼくも少しだけ追っかけをしました。初日の「子どもたちのためのコンサート」。市民プラザへ駆け付けました。ホールに入った瞬間、絶句しました。フロアに置かれたピアノを乳幼児やお母さん方が幾重にも取り囲んでいました。弦に触れる子、端っこの鍵盤を鳴らす子。その中で、確井俊樹さんが平然とピアノを弾いておられました。

弦楽四重奏の演奏が始まりました。こちらでも楽器に手が届きそうなどころまで子どもたちが迫っています。

「もっと近くに寄っておいで。動いてもいいんだよ」という確井さんの呼びかけで、子どもたちが近づきました。子どもを抱っこしたお母さん方が近づきました。皆が音楽を楽しんでいました。その数約230人。会場全体が、やさしさと思いやり、穏やかさに満ちていました。あんな美しい光景を、ぼくは今までに見たことはありません。